

第18回北斗市地域公共交通活性化協議会 議事概要

日時： 令和7年1月16日（木） 15時30分～16時45分
場所： 北斗市役所本庁舎1階 大会議室

(出席) 14名
(代理出席) 2名
(欠席) 7名
(事務局)

1 開会

2 協議事項

(1) 委員の変更について（報告）

- 「資料1」に基づき事務局から報告。

(2) 巡回ワゴンの利用状況について（報告）

- 「資料2」に基づき事務局から説明。

○委員

- ・車内の雰囲気や乗客の意見等実際の状況如何。

●事務局

- ・春に同乗し、運転手や利用客の話を聞いた。茂辺地・石別線では、運行日の月曜日を定休日としている商店が多いといった意見や大野地区のせせらぎ温泉に行きたいので乗り継ぎでアクセスできればよいのに、といった意見があった。
- ・実は、茂辺地地区の方も巡回ワゴンから函館バス新函館北斗駅・上磯線（28系統）に乗り継いでせせらぎ温泉にアクセス可能だが、十分に周知できていなかった。今年度、28系統冬ダイヤ時刻表を全戸配布した際に具体的な乗り継ぎ方法を記載したところ、市民からせせらぎ温泉に行けることを知らなかった等の反応が寄せられる効果が見られた。
- ・大野線については、友人とともにせせらぎ温泉まで定期的に利用する方がおり、乗車率を押し上げている。これまでせせらぎ温泉まで家族に送迎してもらっており、巡回ワゴンの運行が始まったことで、家族に気兼ねなく温泉に行けるようになったと喜んでいた。
- ・事務局では、町内会や老人クラブにサポート乗車やオーダーメイドの時刻表を配布する等の呼びかけを行っている。まだ具体的な数字としては効果が現れてきていないが、引き続き周知に努めてまいりたい。

(3) モニター乗車等の実施について（報告）

- 「資料3」に基づき事務局から説明。

○委員

- ・サポート乗車は通年で募集しているのか。

●事務局

- ・随時要望があれば日程調整の上対応することとしている。

○委員

- ・サポート乗車は、向野町内会以外に実施したか。

●事務局

- ・今のところ要望を受けて実施したのは向野町内会のみとなっている。

○委員

- ・乗り方がわからないから利用していないという人も多いと思われるので、引き続きサポート乗車の実施を継続していただきたい。

○委員

- ・モニター乗車企画実施した学生の意見や反応如何。

○会長

- ・学生の意見ではないが、参加した方の意見を集約し、それを踏まえて学生として今後どうすべきかを提言のようなかたちで北斗市に提出できないかと考えているところ。
- ・この会議に関係しているため、本業でも北斗市の地域公共交通のために何かできないかということで、担当している授業である地域プロジェクトのテーマとして取り組んでいるもの。
- ・小学生向けのモニターツアーのほか、利用が少ない巡回ワゴンをテーマに学生目線で企画・実施している。
- ・参加者からは、広報やチラシだけだと目に付きにくく分かりにくい、宣伝不足といった厳しい声があった一方、学生目線で作成した時刻表や路線図が好評で、これをもっと周知すべきといった意見も出ていた。
- ・こういった学生目線の改善ポイントやこの協議会に対する提言等を学生とともにまとめてみたい。

(4) 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価の実施について（協議）

●「資料4」及び「資料5」に基づき事務局から説明。

○委員

- ・広報や周知の対象は、免許返納者に限るのではなくもっと広く行うべき。
- ・免許を持っていても冬場の運転は怖いと思っている方や夏場でも交通量の多いところまでは行けないという方もいるはず。巡回ワゴンのような公共交通があれば使ってみたいという方も中にはいるはずなので、免許返納者に限定せず広く広報や周知に取り組んでいただきたい。

●事務局

- ・免許返納高齢者に限らず沿線町内会や老人クラブなどに周知を行っており、周知の結果利用するようになったという例も出てきている。
- ・委員の意見も踏まえ、広く我々の声が届くような周知や説明を心がけてまいりたい。

（その他意見、質疑なく、全委員に承認された。）

(5) その他

●今後のスケジュールを事務局から説明。

○委員

- ・資料3で紹介のあった地域プロジェクトの学生さんが作成した経路図や時刻表は、とてもわかりやすく親しみやすいと感じた。

○会長

- ・ツアー実施に当たり、実際の巡回ワゴンの運行内容をもとに作成したもの。参加者からも好評だったため、市にもデータを提供し、活用いただきたいと考えている。

●事務局

- ・今年度、函館バス新函館北斗駅・上磯線（28系統）の時刻表チラシ裏面に、巡回ワゴンとの具体的な乗り継ぎ例を掲載したところだが、今後も学生のアイデアを盛り込むなど、よりわかりやすくなるよう参考にしていきたい。

○副会長

- ・町内会役員会で説明した際の役員の方々の反応如何。

●事務局

- ・函館バス路線の減便についての説明と合わせて巡回ワゴンを乗り継ぎ利用することで函館方面へのアクセスが可能であること等を説明した。
- ・町内会役員の皆さんは、まだ免許返納しておらず自家用車を利用しているが、免許返納した際にはぜひ利用したい、といった反応だった。
- ・よって、具体的なサポート乗車の実施には至っておらず、また、利用者数の増加といった具体的な数字としては現れていない状況。
- ・今後、町内会でのイベントや行事の際に巡回ワゴンを使ってもらうといったような工夫も考えていきたい。

○委員

- ・当社では3か月毎に利用状況を調べている。通学定期は少子化の影響があり減少傾向だが、昨年頃から通勤定期の利用が伸びてきている。
- ・札幌の状況を聞くに、若い世代が免許を持たなくなってきており、公共交通を利用した通勤が増えてきているらしい。巡回ワゴンも将来的には公共交通への乗り換えのために利用されるようになるかもしれない。
- ・現状、巡回ワゴンに観光客を乗せることは難しいかもしれないが、もし観光客もターゲットにするようになれば、更に利用者は増える可能性があるのではないか。
- ・巡回ワゴンは、絶対に必要な事業だと思っている。

●事務局

- ・意見を参考にしながら、来年度予定している第2期地域公共交通計画において、巡回ワゴンのターゲットをどうするか等検討してまいりたい。

○委員

- ・北斗市のイベントに合わせた臨時便の運行は可能か。北斗市夏まつりは、朝8時半から開始しており、道南いさりび鉄道では臨時便を運行している。
- ・利用率が上がることは商店会としても望ましいこと。たとえば、夏まつりの日に臨時便を運行して、巡回ワゴンで来場してくれた方に商店会で作成している団扇をプレゼントするといった協力は可能かと思う。

○委員

- ・まずは実際に乗ってもらうことが重要なので、広報や周知の一環として、イベント時に臨時に運行してみてはどうか。

●事務局

- ・周知の方法のひとつとして、面白いアイデアであると思われる。

○会長

- ・他の自治体での事例だが、今年度、住民同士の支え合いボランティアによる送迎をイベント時にやってみて、運転者や利用者の感想を集めるという取組を行っている。
- ・交通不便地の日常生活に係る移動のためという巡回ワゴン運行の本来の目的はあるが、知ってもらう手段としてイベント時の臨時運行をやってみるといのは、検討の余地があるかもしれない。

○委員

- ・運賃についての利用者からの意見、反応はあるか。

○会長

- ・モニター乗車を行った際に、学生や参加者からは「高いよね」という声があった。

●事務局

- ・定期的にせせらぎ温泉まで利用されている方からは運賃についても好評。
- ・バス運賃とタクシー料金とを考慮して設定しているもので、事務局としてはバランスのとれた妥当な金額ではないかと判断しているところ。

(その他、交通事業者の現状等について情報共有。)

以上